

授業科目名	呼吸療法基礎医学		
主担当教員	布江田友理	担当教員	五十嵐淳介, 多田羅康章(社会医療法人愛仁会), 中村孝人(奈良県立西和医療センター)
授業概要			
呼吸療法に関わる生理・病態生理学、臨床薬理学を基礎から教授する。また、呼吸不全の合併症および呼吸管理法、さらに予防法を教授する。			
到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> 呼吸療法に関わる生理・病態生理の基礎知識を習得する。 呼吸不全の合併症および呼吸管理法に対する知識を習得する。 			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
呼吸療法を理解するうえで重要な知識となる講座です。十分な時間を確保し復習することが必要です。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	担当	
1	循環生理学(実務家)(双方向)	五十嵐淳介	
2	呼吸生理学(実務家)(双方向)	五十嵐淳介	
3	循環機能の神経性調整(実務家)	五十嵐淳介	
4	循環器のストレス応答(実務家)	五十嵐淳介	
5	臨床薬理学の基礎①(実務家)(双方向)	多田羅康章	
6	臨床薬理学の基礎②(実務家)(双方向)	多田羅康章	
7	臨床薬理学の副作用(実務家)(双方向)	多田羅康章	
8	臨床薬理学、鎮痛・鎮静(実務家)(双方向)	多田羅康章	
9	呼吸不全の病態生理、フィジカルアセスメント①(実務家)(双方向)	中村孝人	
10	呼吸不全の病態生理、フィジカルアセスメント②(実務家)(双方向)	中村孝人	
11	呼吸不全の病態生理、フィジカルアセスメント③(実務家)(双方向)	堀竜次	
12	術後合併症(実務家)(双方向)	多田羅康章	
13	新生児・乳幼児の呼吸管理(実務家)(双方向)	本田憲胤(北野病院)	
14	感染予防の基礎(実務家)(双方向)	白井文恵(大手前大学非常勤)	
15	嚥下と誤嚥、口腔ケア(実務家)	森谷正之	
成績評価方法と基準			割合
学修内容に沿ったレポート構成、修了後の学修内容の理解度等の視点から評価			100%

授業科目名	呼吸療法評価学		
主担当教員	角田晃啓	担当教員	角田晃啓、堀竜次、藤江建朗、布江田友理
授業概要			
呼吸療法の実践に必要な評価に関する知識・技術を教授する。 また呼吸療法の理解に必要な呼吸リハビリテーションに関する知識の基礎、ならびに人工呼吸器に関する知識の基礎についても合わせて教授する。			
到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸療法における評価の方法が理解できる。 ・呼吸療法における基礎的な評価が実践できる。 ・呼吸療法の理解に必要な呼吸リハビリテーションに関する基礎的な仕組みを理解できる。 ・呼吸療法の理解に必要な人工呼吸器に関する基礎的な仕組みを理解できる。 			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
呼吸療法技術を理解するうえで重要な知識となる講座です。十分な時間を確保し復習することが必要です。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	担当	
1	胸部レントゲン読影の基礎(実務家)	船橋正夫	
2	胸部 CT 読影の基礎(実務家)	船橋正夫	
3	心エコー読影の基礎(実務家)	小宮山恭弘	
4	血液ガス分析読影の基礎(実務家)	小宮山恭弘	
5	呼吸機能検査の基礎(実務家)	小宮山恭弘	
6	心電図判読の基礎(実務家)	小宮山恭弘	
7	酸素療法(実務家)(双方向)	春田良雄(公立陶生病院)	
8	高気圧酸素療法(実務家)(双方向)	春田良雄(公立陶生病院)	
9	栄養管理(実務家)(双方向)	西田有里(帝塚山学院大学)	
10	呼吸リハビリテーションの基礎①(実務家)	角田晃啓	
11	呼吸リハビリテーションの基礎②(実務家)	堀竜次	
12	呼吸リハビリテーションの基礎③(実務家)	堀竜次	
13	人工呼吸器の基礎(実務家)	藤江建朗、布江田友理	
14	人工呼吸器の合併症(実務家)	藤江建朗、布江田友理	
15	人工呼吸器装着中のモニタリング	藤江建朗、布江田友理	
成績評価方法と基準			割合
学修内容に沿ったレポート構成、修了後の学修内容の理解度等の視点から評価			100%

授業科目名	呼吸療法技術論 I		
主担当教員	堀竜次	担当教員	角田晃啓、布江田友理、藤江建朗
授業概要			
呼吸理学療法技術の習得に必要な基礎知識を身につける事を目的とした講座です。呼吸理学療法に必要な評価から介入方法についての知識を理解する。また、呼吸管理下の理学療法技術の習得を行う。			
到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸理学療法評価について理解できる。 ・呼吸理学療法の基本技術の習得ができる。 ・呼吸管理下での呼吸理学療法の応用技術の習得ができる。 			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
呼吸理学療法技術を理解するうえで重要な知識となる講座です。十分な時間を確保し復習することが必要です。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	担当	
1	フィジカルアセスメント演習①〔視診, 触診〕(実務家)(双方向)	堀竜次、角田晃啓、布江田友理、藤江建朗	
2	フィジカルアセスメント演習②〔聴診, 打診〕(実務家)(双方向)	堀竜次、角田晃啓、布江田友理、藤江建朗	
3	コンディショニング, 呼吸介助手技①(実務家)(双方向)	堀竜次、角田晃啓、布江田友理、藤江建朗	
4	コンディショニング, 呼吸介助手技②(実務家)(双方向)	堀竜次、角田晃啓、布江田友理、藤江建朗	
5	気道クリアランス①〔気管内吸引, 排痰装置を含む〕(実務家)(双方向)	富謙伸 (北野病院)	
6	気道クリアランス②〔気管内吸引, 排痰装置を含む〕(実務家)(双方向)	富謙伸 (北野病院)	
7	人工呼吸器、ECMO 管理中の体位療法〔腹臥位を含む〕(企業等)(実務家)(双方向)	白石匡 (近畿大学病院)	
8	早期離床, 抜管時の理学療法介入(企業等)(実務家)(双方向)	白石匡 (近畿大学病院)	
9	呼吸管理併用下での運動療法〔酸素療法、NPPV、HFNC〕(実務家)(双方向)	嶋崎勇介 (三重大学医学部附属病院)	
10	骨格筋機能不全に対するアプローチ〔電気刺激を含む〕(実務家)(双方向)	嶋崎勇介 (三重大学医学部附属病院)	
成績評価方法と基準			割合
学修内容に沿ったレポート構成、修了後の学修内容の理解度等の視点から評価			100%

授業科目名	呼吸療法技術論Ⅱ		
主担当教員	藤江建朗	担当教員	角田晃啓、堀竜次、布江田友理
授業概要			
呼吸療法技術に必要な人工呼吸器、および周辺機器や器具について、実技を通して理解する講座です。人工呼吸器の基礎とトラブルシューティングを通して、基礎知識と関連技術の習得を行います。			
到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・人工呼吸器、回路構成、酸素療法などについて構造と使用方法を理解する。 ・実技を通して、使用中のトラブルの解除と適切な対処方法を理解する。 			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
呼吸療法を理解するにあたり重要な技術となる講座です。十分な時間を確保し復習することが必要です。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	担当	
1	人工呼吸器の構造理解①(実務家)(双方向)	堀竜次、角田晃啓、布江田友理、藤江建朗	
2	人工呼吸器の構造理解②(実務家)(双方向)	堀竜次、角田晃啓、布江田友理、藤江建朗	
3	人工呼吸器回路構成とトラブルシューティング(実務家)(双方向)	堀竜次、角田晃啓、布江田友理、藤江建朗	
4	人工呼吸中のトラブルシューティング①(実務家)(双方向)	花岡正志(神戸大学病院)	
5	人工呼吸中のトラブルシューティング②(実務家)(双方向)	花岡正志(神戸大学病院)	
6	酸素ポンベの取り扱い(実務家)(双方向)	堀竜次、角田晃啓、布江田友理、藤江建朗	
7	酸素ポンベのトラブルシューティング(実務家)(双方向)	堀竜次、角田晃啓、布江田友理、藤江建朗	
8	HFNC, NPPV とマスクフィッティング(実務家)(双方向)	玉元由果莉 (大阪暁明館病院)	
9	用手換気の基礎とトラブルシューティング(実務家)(双方向)	堀竜次、角田晃啓、布江田友理、藤江建朗	
10	ベッドサイドモニタ、輸液・シリンジポンプのトラブルシューティング(実務家)(双方向)	布江田友理	
成績評価方法と基準			割合
学修内容に沿ったレポート構成、修了後の学修内容の理解度等の視点から評価			100%